

令和 6 年度第 1 回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和 6 年10月 3 日（木）
東京都江戸東京博物館 リニューアル準備室会議室

午後 2 時 57 分開会

知花文化施設担当課長：本日はお忙しい中御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまより令和 6 年度第 1 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料評価部会美術部会を開催させていただきます。

私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の知花と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の司会を務めさせていただきます。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会には江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否か、こちらについて付議する部会、また、評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の皆様にご評価をいただく部会となっております。

本日の評価部会に先立ちまして、昨日 10 月 2 日に収集部会を開催いたしました。当部会でお諮りする案件につきましては、当館に収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をどうぞよろしくお願いいたします。

次に、本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。

私から見まして左の席から順に御紹介させていただきます。

まず、池田委員でございます。

黒田委員でございます。

滝沢委員でございます。

内藤委員でございます。

日野原委員でございます。

続きまして、事務局職員の御紹介でございます。

江戸東京博物館副館長の藤生でございます。

事業企画課長の新田でございます。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

一番上にございますのが本日の会議次第、続きまして、A 4 縦判の資料でございますけれども「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（美術部会）委員名簿」、続きまして「東京都江戸東京博物館収蔵委員会設置要綱」、同じく A 4 縦で「令和 6 年度第 1 回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」、ホチキス留めになっているものでございます。続きまして、A 3 横判の資料でございます、「令和 6 年度第 1 回資料収蔵委員会資料資料評価部会（美術部会）資料」、最後に、こちらも A 3 横判の資料でございますけれども、「令和 6 年度第 1 回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）評価票」となっております。

御不足等ございませんでしょうか。ありがとうございます。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報がございますので、会議終了後、

回収をさせていただきます。

議事に入る前に、当部会の公開について確認をさせていただきます。

本日の議事は、評価対象資料の価格評価に関するものでございますので、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」の第11に基づきまして、非公開とさせていただきます。

なお、当部会の議事録につきましては、資料収集決定後、委員の皆様の個別の価格評価を除きまして公開を予定しております。公開に当たりましては、委員の皆様には内容の確認を迫っていただければと思います。また、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて既に公開をさせていただいております。

それでは、議事に入りたいと思います。

江戸東京博物館事業企画課長の新田より、本日皆様に評価いただく資料の説明をいたします。

よろしくお願いします。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明をさしあげます。

A 4「令和6年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」を御覧ください。

まず、1件目の資料は喜多川歌麿の「風流子宝合 金魚」でございます。母親や姉と幼い子供が交歓する姿を描いたシリーズの一枚でございます。

子供の姿を描く浮世絵は、浮世絵の画題が遊里や芝居町から市井へと広がるにつれて登場したとされます。神からの授かり物として慈しみ、健やかな成長を願う子宝絵も好まれました。

喜多川歌麿も度々子供を描きましたが、いずれも女性と共に描いており、美しい母子絵・姉弟絵として成立させております。

本図は、針箱にもたれてうたた寝する母親の前で、子供が水盤から石菖を抜いてひっくり返した様子が描かれます。母親の静寂と子供の動的なそぶりが対比されるとともに、2人の視線がこちらへ向けられないことによって、鑑賞者が決定的な瞬間をかいま見てしまったかのように感じさせる表現が巧みです。他の所蔵と比較して退色は多少あるものの、左右両端のトリミングが少なく見受けられます。傷みも少なく、良好な状態です。

本シリーズについて、和泉屋市兵衛版は現在5枚が知られております。当館でも既に「三番叟」、「大からくり」の2点を所蔵しており、シリーズの補完につなげることが出来ます。

2件目の資料は、鳥文斎栄之の「吉原十二時画帖」でございます。

旗本出身で浮世絵師に転身した鳥文斎栄之が、吉原の1日を12刻に分け、12図に描いた肉筆の画帖です。表向きのハレの場ではなく、吉原に暮らす人々の日常生活に焦点を当てています。

第一図の早朝の「卯刻」から第十二図の「寅刻」まで順に、酩酊する客の追い出し、引手茶屋で刀を受け取る侍、禿の髪結いと初鰹売り、営業前の遊女、茶屋のたな先での餅つきと引き初めのそば、昼の張見世の遊女、桜樹の下、ちょうちんを運ぶ男衆、座敷に呼ば

れていく芸者、酒肴を楽しむ芸者たち、引き四つの拍子木を打つ男らが行き交う夜道、なじみの客に手紙を書く遊女、まがきの掃除をする男衆などが描かれています。

当館は、「隅田川風物図屏風」をはじめ、栄之の作品を複数所蔵しており、本作は既収蔵品に加えて栄之の活動を明らかにする上で有用です。加えて、当館の常設展示「芝居と遊里」では、吉原に関する資料を紹介しております。本作のように、吉原を支える多様な人々の日常を伝える資料は、当館の展示に格好といえます。

続いて、3件目、4件目は、葛飾北斎の「富嶽百景」初編、二編でございます。

富士を主題とする様々な構図の絵を収めた墨摺りの絵本です。「富嶽三十六景」に続いて発表され、天保5、6年に西村屋祐蔵から初編・二編が出版された後、版権が永楽屋東四郎に移って三編が追加されました。このたびは初編・二編の初版本を付議いたします。

前後の表紙には近江八景の図が空摺りされ、題箋には鷹の羽の文様があしらわれます。多様な姿を見せる富士図は、彫り師に名工を指定し、細部まで吟味しながら制作されたといえます。巻末には、北斎が自身の人生を述懐し、100歳を超えて新たな画境を目指す決意を記した有名な跋文が載ります。

本資料には虫食いがほとんどなく、墨の濃淡など、初版本の良好な摺りをよく伝えます。北斎絵本の最高傑作として北斎の画業を語る上で欠かせない資料です。浮世絵や出版の歴史に関する特別展などにおいて幅広い活用が見込まれます。

5件目の資料は、「新版画」第17号、藤牧義夫特集号でございます。

「新版画」は、昭和7年4月に「版画の大衆化」を目標に掲げて結成した小野忠重ら22名の新版画集団が刊行した機関誌です。昭和7年6月から昭和10年12月までの3年半に18冊が刊行されました。団員の自画・自刻・自刷作品を毎号十数点貼付し、版画芸術に関する研究や展覧会評、詩なども載せた意欲的なもので、制作の背景や当時の版画界の状況が分かります。

本号で特集が組まれた藤牧義夫は、明治44年、群馬県館林に生まれ、16歳で上京し、染色図案家の下で修業します。その後、商業図案社に勤めながら独学で木版画を始め、斬新な構図や色彩、独自の描線で都市風景や心象を表しました。新版画集団において機関誌制作や展覧会、研究会等の活動を行い、帝展にも入選いたしました。

「新版画」の発行部数は40部から200部と少ないですが、当館は本号以外の17冊を収蔵しております。話題性のある藤牧義夫特集号で、掲載版画10点のうち、表紙を含む「裏街」、「川面」、「五月」、「彼岸」、5点が藤牧作品です。発行部数50部の希少性から入手困難でしたが、このたびようやく全号がそろそろ見込みとなりました。

6件目の資料は、「鉄道省観光ポスター 道成寺」でございます。

新版画を興した渡辺庄三郎の下、美人画を得意とした伊東深水が手がけた外客誘致ポスターです。昭和5年、鉄道省に設立された国際観光局は、昭和7年より渡辺木版画舗に海外向けの観光宣伝の印刷物制作を依頼します。渡辺庄三郎は、深水や川瀬巴水、穴山勝堂らを起用し、各1万枚ずつポスターを制作しました。本資料はそのうちの1点です。

木版画において1万点は極めて異例な大量出版であり、当時としても未曾有のプロジェクトでありました。昭和前期に行われた日本における外客誘致活動の記念碑的作品です。

巴水が「宮島」、勝堂が「富士」と、風景を描く中、深水は「道成寺」を題材といたしました。能や歌舞伎で演じられた人気の演目を描くことで、日本の歴史や文化についてより深く海外へ発信しようとしたと思われます。木版画に描かれた娘の視線は、台紙の釣鐘へと向けられ、鮮やかな紅白でオフセット印刷された台紙と木版画が一つの画として調和しております。

版画部分の染みや全体の折りじわ、台紙の補色などが認められますが、海外向けの配布物であったことから残存数は少なく、特に台紙に貼り付けられた状態での現存例は本資料を含めて3例しか判明しておりません。

当館は、巴水による「宮島」を収蔵しており、既収蔵品と併せて、常設展示「モダン東京」及び新版画関連の展示での活用が見込まれます。

7件目の資料は、「1935年カレンダー 精進湖より望む暁の富士山」でございます。

6のポスターと同様に、国際観光局から渡辺木版画舗への依頼により制作されたカレンダーです。川瀬巴水の木版画を機械印刷の台紙に貼り付けたもので、2万部制作されました。本資料は台紙及び台紙に貼られたカレンダーを残す完品で希少です。

精進湖から見る富士山は、スイスの風向に似通っているとして海外旅行客に評判の高い風景でした。巴水は日本を代表する風景の一つであり、また縁起のよい日の出の風景をカレンダーにふさわしい図様として選択したのでしょう。国際観光局依頼のカレンダーとポスター、またクリスマスカードについて、巴水は他の絵師より高い頻度で制作を担当しており、渡辺庄三郎からの信頼の厚さと海外での評判の高さがうかがえます。

背面ラベルには、ニューヨークとロサンゼルス事務局の住所が掲載されており、在外事務所から世界へ配布されたことが分かります。

既収蔵品の巴水によるポスター「宮島」、前述の深水によるポスター「道成寺」とともに、新版画が対外宣伝の一端を担っていたことを示す資料として重要です。

審議案件について御説明は以上でございます。

知花文化施設担当課長：新田課長、ありがとうございました。

本説明につきまして、御質問、御意見等ございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

続きまして、評価方法について御説明をさせていただきます。

先ほどお手元にお配りさせていただいております評価票でございますけれども、こちらに金額を記載いただきまして、署名をいただきたいと思いますと考えております。評価額の最高価格と最低価格を除きました残りの価格の平均値を委員会としての評価額とさせていただきます。

こちらの評価方法について、御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これから資料の実見をお願いできればと思います。係の者が御案内いたしますので、移動をお願いします。

資料に関する個別の御質問につきましては、学芸員にお尋ねいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

知花文化施設担当課長：皆様、どうもありがとうございました。それでは、議事を再開させていただきます。

資料を御覧いただきましたけれども、皆様のほうから御意見、御質問等ございますでしょうか。

御覧いただいた御感想でも構いませんので、もし何かございましたらお願いできますと幸いです。よろしいでしょうか。

そうしましたら、評価に移ってまいりたいと思いますけれども、お手元の評価票に価格評価と御署名をお願いできればと思います。ペンでのご記入に御協力をお願いいたします。金額については消費税込みの表記となりますので、よろしくお願いします。

(評価票記入)

知花文化施設担当課長：御記入がお済みになられましたら、係の者が確認させていただきますので、お声がけいただければと思います。確認終わりましたら御退席いただいて結構でございます。よろしくお願いいたします。

午後3時32分閉会

以上